

日本の観光旅行業界のComputer システムの持つ課題と対応

JTREC

鈴木専務理事

2020年11月19日

2020年11月24日追加

日本の旅行関連業界のコンピュータシステムが持つ課題

1. 国際旅客への日本の旅行関連商品・情報の販売や提供

販売商品・情報	GDSの活用	巨大OTAの活用	自社のWebシステムの活用	共有システムの活用その他
航空	○	○	○	NDCの活用
LCC			○	PSSの活用
鉄道	○(一部) 外部サイトに接続、オンライン結合(AccesRail)		○	JTB等の海外システムの活用、Rail Europe
旅行(大手)		○(一部) オンライン結合	○	
旅行(一般)		外部サイトにデータを入力し、OTAに取込む	○(一部)	
ホテル・旅館(大手)他		○(一部) データのみ取込み	○(一部)	日本の大手サイト
地域商品(Optional Tours) 観光情報	○	○	Optional Tours サイト多数	クルトラ、VELTRA等の活用(リンクシェア) Google, Trip Adviser

2. 特徴

1) 日本の旅行関連商品を国際旅客に販売する時は、海外のGDSと大手OTA及び国内の大手販売事業者のサイトが利用されている。

(特に、海外のGDSやOTAの日本進出が顕著)

2)しかし、提供される商品の種類(主としてホテル、それに航空、鉄道、レンタカー、オプションツアー)及びその対象となるホテル等の数は限られている。

3) Optional Toursの販売では、WebやSNSサイトとのリンクシェアが新たに出てきているが、他旅行商品とのリンクは少ない。またツアー商品の類は海外向けの提供は極めて少ない。

4)日本で立上げた国際的なOTAの類のシステムはない。

3. 日本で国際的なシステムが生まれない原因は

1) 日本の枠(日本語、個別システムを良しとする考え、システム開発会社の請負体質)から脱却できない。

2) 国際的なシステム化の構築が発想、或いは世界進出のステップづくりができない。

(標準化の成果の活用の意識の不足、英語の活用能力の不足)

3) システム開発能力を持つ企業は請負体質で、自ら危険を冒す考えはない。